

外がわからみた

スウェーデンの感想

社会保障研究所 三浦文夫

◇ この春、わずか半月でスウェーデン、イギリスを廻ってきた。スウェーデンには5日の滞在であり、用務以外はサイトシーイングを楽しむ余裕もない忙しい旅程であった。この短い旅行でスウェーデンを語ることはあまりにも面映ゆいことである。スウェーデン訪問の主な用務であるスタグフレーション下における社会保障・社会福祉の課題とか、社会保障の行財政については、イギリスのそれとあわせて別に報告書としてまとめたので、ここではスウェーデンでの印象をもとに、旅行後の感想めいたことを思いつくままに書いて、編集部求めに応じる責をふさぎたい。

◇ スウェーデンへの旅行で、驚いたことの1つに、物価がえらい高いということであった。国際的にインフレが進んでいるとは聞いたが、北国で落ちついた国といわれるスウェーデンでもそうなのかと改めて感じさせられた。

まず空港からストックホルムのホテルまでのタクシー料金の高いのに驚かされたのが最初である。それからホテル料金、食事代の高さに、スウェーデン到着そうそうから、囊中を心配する仕末で、それからは煙草代が日本の3倍から4倍もするのに目を白黒し、禁煙でもしようかと出来もしないことを考えたりした。実は最初1週間の滞在を予定していながら、5日で滞在を切り上げ、イギリスに渡った理由の1つは、この物価高にいささか前途に不安をもったからでもある。

こんなに物が高くては、さぞかしスウェーデンの人びとの暮らしも大変であら

うというのは、どうやら下司の勤ぐりということのようであった。

というのはまずスウェーデンの所得なり、賃金の高さを考慮に入れなければならぬからである。1人当りの国民所得がアメリカについて世界第2位であるということは知っていた。この旅行でたまたまこの所得(賃金)の高さを物語るエピソードがあったので、ついでに紹介しておこう。

それはストックホルムの北方に隣接する地方都市での話である。この町に行ったのは地方自治体での老人福祉サービスがどのようになっているかを調査するためであったが、このなかでホームヘルパー(ホームサリット)の活動を聞いた。説明に当たった担当官はいろいろホームヘルパーの説明をしたあとで、問題はホームヘルパーに金がかかって大変であるとのことであった。この町でのホームヘルパーはボランティアではなく、職員であるとのこと。そしてその賃金は2500円から2700円ぐらいであって、ホームヘルパーの増員をはかるための財源措置が、地方自治体としては問題であるというのである。いうまでもなくこの2500円なにかしというのは、1時間当りのことで、そそかしい私はわが国のことを念頭において、1日当たりと早とちりをして赤面した覚えがある。日本のホームヘルパーの給料(手当)が安すぎるかも知れないが、この計算でいくと日本の6~7倍の勘定になる。これはあくまでも1つの例であるが、スウェーデンの賃金の高さの一端を示すものであろう。

つぎに物が高いといっても、物によるということである。たとえばタクシー代は日本の3倍余りだといっても、バスとか地下鉄は日本並みかそれ以下である。ホテル代(食事代・税金を含めて)に1日1万2000円もかかったといっても、住宅費は目をむくほどのものではない。むしろ住宅の広さ、設備等を勘案してみると、日本より大分安いということすらいえそうである。煙草が高いといってもワザワザ肺がんになることを望まない人にとってはどうということはない訳である。要するに物が高いといっても、生活に必要な基礎的支出はそれほど高いわけではない。

それにつけ加えて、医療サービスの面では差額徴収などはない(ただし一部

分自由診療はあるようである)し、年金になると(日本で喧伝されるほどその水準は高いものではないが)、すべての高齢者、障害者等に均霑していることになる、標準的な生活を維持するのに、私ども他人が気にするほどのことはないわけである。

要するに短期間の旅行者にとって、ホテル代・タクシー代の高いのはこたえるが、ストックホルムで生活をしている人にとっては、このような物の高さは目くじらを立てることではないようである。

◇ 短期間の旅行で、訪問先の事情を理解しようとする、どうしても自国の経験なり事情になぞらえてみがちになる。もちろん短期間に理解を深めようとする、しっかりとした問題意識をもつことは大切なことではあるが、度がすぎると「蟹は自分の甲羅に似せて穴を掘る」というたぐいの傾向をもちやすくなるものである。

今回の小旅行のねらいの1つは、いわゆるスタグフレーションと低成長経済のもとで、いわゆる高福祉・高負担の実態と問題を知ることであった。その意味ではスウェーデンという国は、この課題を学ぶうえで、まことに恰好の事例となる国である。

スウェーデンの高い福祉水準については、わが国では数多く紹介されているので、今さらここで述べる必要はあるまい。そしてこの高い福祉水準を維持するためにも、高い税金と社会保険拠出が必要なこともよく知られている。

たとえばその1つの例は国民総生産に占める政府収入(租税プラス社会保険拠出料)の割合でみることができるが、スウェーデンでは48%になるとされている。しかもこのうちの税負担をみると、間接税の高さは別として、全体としてわが国より激しい累進制をとっているようである(とくに所得税)。また相続税にしても一寸した遺産相続でも、びっくりするほどの税金がとられ、一見「子孫のために美田を残さず」という方針のようにすら思えるほどである。

このような高負担に対して、国民はどのように反応しているのか。わが国にとっても仲々興味あるトピックスらしく、この点をめぐっていろいろのことが

流布されている。できればこの点についての世論調査なりが系統的に行われていればまだしも、これらのデータはあるわけではないので、いろいろな揣摩憶測がわが国では出てくる。

たとえば資産家たちは財産かくしに汲々とし、なかには海外に財産を疎開させるもの、海外に移住するものなども少くないという噂もその1つである。この真偽を確かめることはできなかったが、ある1人のスウェーデンの人と話をしたとき、彼はつぎのようなことをいっていた。「海外への移住者が増えているかどうかは自分には分らないが、お説のように税金の高いのには閉口する」と。そしてそれに続けて彼は「しかし税金が高いからといって、他所の国に逃げ出してどうするのだろうか、我々はこの国ほど暮し易く、良い国はないと思っているのであるから、他所の国に移りたいなど考えたこともない。もしこのような国を捨てて他処に行きたい人がいればどうぞ遠慮なく他処に行けばよいのだ」という趣旨を述べていた。

どうもわが国のような低い福祉状況で、税金が何に使われ、税に対する不公平さを感じているものにとって、税金が高くなる、高負担だということになると、できれば他の国に逃げ出したくなるかもしれない。どうも上記の噂話は蟹が甲羅に似た穴を掘る式の日本の発言かも知れない。

◇ 外国に行った日本人はよく2つの態度に陥り易いといわれている。その1つはいわゆる外国かぶれというもので、他の1つは逆に国粹的になるというのである。もっとも今回のような駆け足旅行で、かぶれるほどの期間も、国粹的になるほど外国の影の部分を見たわけではない私などは、どういってよいのか分らない。しかし強いていうとどちらかという私の場合には後者の傾向があるかもしれない。

もっともそこでいわれる国粹的傾向が、外国と比較して、日本は立派だという式のものであれば、それとは異なる、どちらかという「日本はこれでよいのか」という反省なり焦りに似た感情になるという意味で国粹的というだけのことである。その点では外国かぶれの裏返しかも知れない。

その例の1つは、スウェーデンが国の独立と中立を守るため、どれほどの苦勞をしているかということをかき間みたような気がしたからである。たとえば現在スウェーデンでは石油の国内備蓄を3カ年分にするということで努力しているとのこと。我々は先日の石油ショックとやらで、わが国の経済は右往左往し、無茶苦茶な物価騰貴を経験したところである。春秋の筆法を用いれば、アラブのクシャミは日本人を走らすということになる。このなかでスウェーデンの3カ年の石油備蓄というのは考えさせられた。

同様のことは食糧問題についてもいえることである。どこかの国のように、食糧の供給を他国の傘のもとで求めることが、はたして国の独立なり中立を守るのに障りはないのかどうか。あまり政治的問題に関心のない人間でもどうも気になることである。

ところでその一方で、スウェーデンではGNPの1%を開発途上国の援助にきちんと支出しているのも考えさせられる。日本はこれでよいのかという感慨はこの面にも持たされた。

編 集 後 記

今年の残暑はきびしく、真夏のように暑い日が、いつまでも続いた。しかし、よくしたもので、彼岸花の咲きこぼれる頃になったら、流石に涼しくなった。しかも、朝夕ちょっと涼しくなったかと思うと、急に涼しくなり、雨の日には、まだ10月に入ったばかりなのに、気温は日中でも17度位だった。朝早くバスの停留所に並ぶ人びとも、黒い姿がめっきり増えたが、今年の秋は駆け足で深まるようだ。初霜、初氷、初雪があちこちから伝えられたが、それらが今年は少し遅いそうだ。ところで、残暑がきびしく、日照の強い年は、紅葉が一入美しい。今年も、山小屋の主人から山歩きの誘いが届いた。

(平石)

海外社会保障情報 No. 31

昭和50年10月25日発行

編集兼発行人 社会保障研究所

〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-3-4

電話03(580)2511

製作所 和光企画出版株式会社
